場所・面積

長野県長野市、0.78 ha

管理目的

「総合環境企業ミヤマ株式会社」のワーケーションプレイスとして位置づけられている花伝舎は、新たな環境課題の解決を図る技術開発拠点、当社社員の教育の場であると同時に、地域の生物多様性保全を通じ、地域の皆様と交流することを目的とする。

サイト概要

花伝舎は希少植物が観察できるエリアやハーブなどの香りが楽しめるエリア等テーマに分かれた４つの庭から構成されており、四季を通じて約500種類の草花が楽しめる。

園内では、トガクシソウ（トガクシショウマ）など環境省や長野県のレッドリストに選定された植物をはじめ、希少なチョウ類や鳥類も観察できる。



土地利用の変遷

2005年に耕作放棄地であった土地をナチュラルガーデンとして整備し、2019年からはミヤマ(株)の関連施設として社員のワーケーションプレイス、技術開発を目的に管理運営を行っている。

サイト周辺の環境

長野市市街地から北へ約20km進んだ妙高戸隠連山国立公園に指定される長野市戸隠は、標高1,000mを超す高原特有の冷涼な気候を生かしたそばづくりが盛んであり、花伝舎の周囲もそば畑が広がる自然豊かな環境である。



アピールポイント

戸隠高原にある当園は冬は4カ月近く雪に覆われ、平地に比べて春夏秋が短い冷涼な気候であるため、こうした環境に適応できる耐寒性のある宿根草や花木を中心に植栽し、早春のスイセンから晩秋の紅葉まで季節の移ろいを感じることができる庭園となっている。在来種や戸隠周辺の山野草などの希少種も観察可能であり、生物多様性を観察できる場としての整備も進めている。このような戸隠の気候風土によって形作られる環境を後世に残すべく庭園を維持し、地域住民や子供たちに公開して生物多様性とその保全の意義を伝えている。

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

2005年に耕作放棄地であった土地を整備。木もれ日の庭（1,874㎡）は、戸隠周辺の山でよく見られるモミジやカエデを中心に植栽してあり、木々を縫うように園路を配置。モミジの葉が芽吹く前にはスイセンなど春の花が一面に咲き、夏には茂った葉の間から注ぐ木もれ日により自生する在来種が成長し、秋には紅葉を愛でながら園路を散策できる。サイト内では、小中学生向けの環境教室を実施しており、コテージでの座学や庭園を散策しながらの自然観察・自然体験などの授業を行っている。

【主な植生】

カラマツ林であった場所に戸隠周辺の山でよく見られる落葉広葉樹のモミジやカエデ、春に花を咲かす花木を植栽。自生していたクサソテツなどの植物が増え、両者が融合した植生が形成されている。

【確認された主な動植物】

以下の通り、在来種が確認されている。

（植物）

・ヤマホタルブクロ（学名：*Campanula punctata var. hondoensis*）
・ミズヒキ（学名：*Persicaria filiformis*）
・ホウチャクソウ（学名：*Disporum sessile*）
・クサソテツ（学名：*Matteuccia struthiopteris*）

（蝶）

・ミヤマカラスアゲハ（学名：*Papilio maackii*、成体）
・クジャクチョウ（学名：*Inachis io*、成体）
・サトキマダラヒカゲ（学名：*Neope goschkevitschii*、成体）



写真の撮影年月：2022年9月
写真の説明：環境教室の様子



写真の撮影年月：2022年8月
写真の説明：サトキマダラヒカゲ

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

草原性の希少なチョウ類が生息している。また、山野草の庭（1,344㎡）は、戸隠周辺の「山野草」を集めたエリアで、希少植物の保護区として整備をしている。

【確認された希少種】

〈植物〉

トガクシソウ（トガクシショウマ）（学名：*Ranzania japonica*、環境省RL:準絶滅危惧、長野県RL:絶滅危惧ⅠA類）などが確認されている。

〈蝶〉

草原性の希少なチョウ類が確認されている。

〈鳥〉

希少な鳥類が確認されている。



写真の撮影年月：2022年4月
写真の説明：トガクシソウ（トガクシショウマ）

サイトの管理計画・モニタリング計画

管理計画の内容

【管理計画の内容】

【目的】
庭園の植物を維持管理することによって在来種や希少種（植物・昆虫等）が生育・生息する環境を保全し、地域住民や子供たちに公開して生物多様性とその保全の意義を伝えることを目的とする。

【概要】
ガーデンのある戸隠地域は豪雪地帯であるため、雪に閉ざされる12月～3月は施設を閉め、雪解けを待って植物の維持管理等を行う。

【管理計画】
・4月：春の維持管理（冬囲いの撤去、植栽エリアの整備、春から初夏の一年草の植栽）、通常維持管理（希少植物・在来種の生育状況の確認、除草作業）
・5月～6月：通常維持管理（希少植物・在来種の生育状況の確認、除草作業）
・6月～7月：夏から秋咲き苗の植栽、通常維持管理（希少植物・在来種の生育状況の確認、除草作業）
・7月～10月：通常維持管理（希少植物・在来種の生育状況の確認、除草作業）
・11月：秋の維持管理（剪定、植栽エリアの片付け、冬囲い）
・12月～3月：閉園中の見回り（積雪による倒木、冬囲いの損傷、野生動物の侵入を確認）

モニタリング計画の内容

【モニタリング対象】
ガーデン内にある「レッドリスト選定植物」及び「戸隠周辺に生息する植物」、花伝舎に飛来する蝶

【モニタリング場所】
花伝舎全域

【モニタリング手法】
モニタリング対象植物を定期的に見回り、生育状況をチェックする。目視による蝶の確認。

【実施時期及び頻度】
・植物
実施時期：4月～11月
頻度：毎月1回（初旬）
・蝶
実施時期：4月～11月
頻度：不定期　社員による蝶の目視確認
　　不定期　中村寛志信州大学名誉教授による調査

【 実　施　体　制 】

人　員：3名
方　法：モニタリング対象植物の植栽箇所を定期的に巡回・監視する。目視による蝶の確認。
その他：日頃から植物の維持管理作業に携わるスタッフによる巡回・監視であるため、生育環境の変化に適宜対処できる。